

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00565

研究課題名(和文)モノ資料からみる近代アイヌ社会と文化

研究課題名(英文)The Society and Culture of Modern Ainu from the Viewpoint of MONO Materials Including Documents, Shikki, Paintings and Pictures

研究代表者

浅倉 有子 (ASAKURA, YUKO)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・特任教授

研究者番号：70167881

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,800,000円

研究成果の概要(和文)：近代におけるアイヌ民族の社会と文化について、主に漆器を通して検討するという本研究課題の目的は、概ね達成したと考える。中でも、幕別町蝦夷文化考古館所蔵のアイヌ伝世漆器について年代・産地の同定・考察を行なったこと、新ひだか町博物館・余市水産博物館の伝世・出土漆器、北千島のシャスコタン島の出土漆器の科学分析を行ったことは、大きな成果である。文献史料の成果としては、近代アイヌ史の蓄積への貢献と、近世・近代移行期論に寄与した点があげられる。さらに、アイヌ絵に描かれた漆器を分析し、アイヌ・和人間の関係の変質を論証した点など、総体としてアイヌに関わるモノ資料研究を大きく前進させたことを成果としたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

北海道内の博物館等の所蔵漆器の年代と産地、地域性の差異を、明確にしたことである。帯広・幕別などの日高山脈以東の道東地域と、以西の日高地域等では伝世漆器の特徴が異なっており、地域的な差異が存在することが判明した。さらに一時的に下火になるものの、近代以降戦前に至るまで、連綿としてアイヌ向けの漆器が特注されていたことを明らかにした。緑漆行器の存在を初めて確認するという成果もあった。加えて、個別実証研究の必要が叫ばれつつも、意外に成果に乏しかった近代アイヌ史の蓄積への貢献と、近世・近代移行期論に寄与した点を成果としてあげたい。青森県内の民俗資料とアイヌ伝世漆器との共通性の発見も附言したい。

研究成果の概要(英文)：We believe that we have largely achieved the purpose of this research project, which was to examine the society and culture of the Ainu people in modern times, mainly through shikki(lacquerware). Among these, a major achievement was the identification and analysis of the age and place of origin of Ainu shikki owned by the Makubetsu Town Ezo-bunnka-kokokann Museum, and the scientific analysis of lacquerware excavated from Chiashkotan Island in the northern Kuril Islands. As for the achievements of historical documents, they have contributed to the accumulation of modern Ainu history, which had surprisingly little results, and contributed to the theory of the early modern/modern transition period. The analysis of Ainu paintings has revealed the changes in the relationship between the Ainu and the Wjin (Japanese people). Demonstrated results can be presented. Overall, we are proud of our achievements as a major step forward in research on materials related to the Ainu.

研究分野：日本近世史

キーワード：アイヌ 伝世漆器 科学分析 シャスコタン島 緑漆行器 蝦夷文化考古館 近代アイヌ史 モノ資料

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「もの」とその移動は、異質な環境・地勢・国家・民族・文化を越え、広域ネットワークを形成する立役者として働き、地域間を結合し、広大な歴史的世界を構成することがあった。また、文化と文化の間を移動する時に、「もの」の意味のずれがしばしば発生し、それぞれの独自の文化の価値体系に組み込まれるという現象が出現する。本研究課題が対象とするアイヌ民族にとっての漆器は、アイヌによって本来の文脈から切り離され、独自の世界観と価値体系に基づいて再解釈され、固有の文脈で使用された。

アイヌ民族にとって漆器はまさに「魂の器」であった。漆器は、神と人間(アイヌ)を媒介する祭具であり、また威信財でもあった。アイヌ文化の成立を考える上で、漆器は重要なメルクマールとなる。本研究は、平成 25 年度から同 30 年度まで継続して進めてきた科学研究費助成事業基盤研究(C)「アイヌ漆器に関する歴史的研究 文献史学と考古学、民俗学・文化人類学の連携」(課題番号 25370765)、同(B)「アイヌ漆器に関する学際的研究」(課題番号 16H03472)をさらに深化・発展させようとするものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近代におけるアイヌ民族が有した文化的力量を、漆器を中心にすえて再検討することである。すなわち、近代のアイヌが用いた漆器に関する a 文書史料の調査・検討、b 絵画・映像資料の調査・検討、c 現有漆器の観察調査、d 漆器の科学分析という四つの手法によって、近代におけるアイヌ民族の歴史と文化的力量を検討することを目的とする。

3. 研究の方法

本科研では、a 文書史料の調査・検討、b 絵画・映像資料の調査・検討、c 現有漆器の観察調査、d 漆器の科学分析という四つの手法によって、研究を行う。また本研究は、二つの地域を設定して進めていく。一つ目は、新ひだか町から様似町間の地域、二つ目が幕別・十勝地域である。新ひだか町 様似間の地域を設定したのは、明治初年、この地域に漆器が豊富に販売されていたことが理由である。また、新ひだか町博物館は、地元のアイヌの人々が用いた漆器を豊富に収蔵し、かつ文書史料として金子氏旧蔵の明治 10 年代の大福帳等を所蔵していることによる。さらに様似町郷土館には、場所請負商人の系譜を引く矢本家文書と漆器が収蔵されている。二つ目の地域である幕別町の蝦夷文化考古館には、白人(ちろっと)コタンのリーダー・吉田菊太郎(1896-1965)によるコレクションが収蔵されている。吉田は、白人コタンの指導者で、地域アイヌの文化財を蒐集した。また文書類もあり(忠類総合支所所蔵、一部刊行済)、総合的な調査を行うことが可能な地域と考える。さらに幕別町を含む十勝地域には、晩成社という組織が「開拓」に関わっており、その関連史料も豊富に存在する。それらの地域の a 文書史

料について、調査と分析・検討を行う。併せて当該地域における c 現有漆器の観察調査を実施する。これは、各漆器について、形状、色調、文様・加飾等の技法、シロシの有無、計測等の漆器に関する様々な調査を指す。d 漆器の科学分析は、漆器から剥落した塗膜片・木胎片を用いて、塗膜片の断面を高精度の顕微鏡を用いて観察し、塗膜の階層や下地等を確認するクロスセクション分析(横断面観察)、使用された顔料を特定する蛍光 X 線分析・多点元素分析、漆の樹種の特特定(国産・中国産等の特特定)等に併せ、木胎片の樹種同定・年代測定等を行う。その上で、従来基準資料として利用されていた漆器との比較・検討を行う。これらの分析の積み重ねによって、当該漆器に用いられた技術と製作年代、生産地の検討・考察を行う。さらに b 絵画・映像資料の調査・検討に関しては、アイヌ絵・紀行文の挿絵等に描かれた漆器、例えば松浦武四郎の安政 5 年(1858)の「手控」や、「蝦夷訓蒙図彙」等を検討することで、漆器の用いられ方、すなわち漆器が有した「機能」が判明すると考える。

以上の文理融合による分析の成果を統合して、それぞれの地域のアイヌに、いつ、どのような漆器が、いかなるルートでもたらされ、どのように利用されていたのかを総合的に検討していく。

4 . 研究成果

近代におけるアイヌ民族の社会と文化について、主に漆器を通して検討するという本研究課題の目的は、概ね達成しえたと考える。文献史料の調査としては、北海道立文書館所蔵史料を中心に、場所請負商人の系譜を引く様似町郷土館所蔵の矢本家文書、新ひだか町の金子家文書、北海道博物館の未公開史料である武岡家文書等を調査し、それぞれ論考を執筆した。また、アイヌ自身の手による稀有の文献史料である白人(チロット)コタン(現・幕別町)のリーダー・吉田菊太郎文書の調査に着手したことは、特筆できる。絵画資料としては、北海道大学附属図書館北方資料室等の各機関所蔵資料をはじめ、インターネットを活用した海外資料の調査を行った。モノ資料調査では、予定していた新ひだか町博物館・様似町郷土館・室蘭市民俗資料館・帯広百年記念館等に加え、余市水産博物館・釧路市立博物館において、所蔵漆器・出土漆器シートの調査を実施し、その一部について塗膜分析を行った。

c 現有漆器の観察調査を通して、かなり特徴がある漆器を複数点確認できた。帯広百年記念館所蔵の溜塗に唐獅子牡丹の箔絵を施した丸行器、山中塗の可能性のある千筋文の鉢等が、初めて確認できた事例である。とりわけ、幕別町蝦夷文化考古館において、緑漆(青漆)行器に吉野絵を施した丸行器の存在を、アイヌ伝世漆器として初めて確認できたことを、大きな成果としたい。緑漆行器は、平沢屏山「熊送り図」等のアイヌ絵に描かれているものの、劣化しやすいため、これまで存在を確認できずにいた。d 漆器の科学分析の成果としては、この丸行器を含め、同館所蔵の数十点のアイヌ伝世漆器について科学分析を行い、年代・産地の同定・考察を行ったことをまずあげたい。これほどの数量のアイヌ伝世漆器の同定を行なった事例はな

く、極めて大きな成果である。前述の丸行器は、科学分析によって、幕末の輪島塗と同定された。他に幕末の輪島塗の食籠も確認された。一方、同館所蔵の椀類には京漆器が多く、しかも他地域とは異なり、江戸中期 後期の良品が多数を占めることが判明した。併せて、特徴的な蝦夷模様の椀（蛸唐草文様の漆椀、幕末に千家十職の八代中村宗哲が考案した意匠）は輪島塗と会津塗で、大正後期 昭和前期のものであることがわかった。すなわち、戦前に至るまで連続としてアイヌ向けの漆器が特注されていたことが判明したのである。他方、余市水産博物館と新ひだか町博物館でも、科学分析によるいくつかの成果があった。行器・貝桶は、江戸中後期の京漆器、新ひだか町博物館所蔵の片口を、江戸後期 明治初期の浄法寺塗と同定した。さらに、これらの博物館では、東南アジア産の漆をブレンドした事例を確認でき、17世紀以降のアイヌ向け漆器の流通と漆自体の流通として、興味深い成果が得られた。併せて、千島列島北部のシャスコタン島から出土した漆器の科学分析を行い、室町 安土桃山時代の日本製の漆器と同定した。日本製の漆器が、北千島へまで流通していたことを確認した初めての成果である。

これらの分析を通して得られた結論を提示すると、日高山脈以東の道東地域である幕別・帯広地域と、以西の日高地域、余市等との所蔵漆器に地域性が存在するという点である。このような地域性が出現した理由については、漆器を取り扱う商人の違いなどが想定されるが、まだ結論を得ていない。今後の課題としたい。

a 文献史料研究の成果としては、金子家・矢本家・武岡家という商家の経営帳簿等の分析から、地域のアイヌの姿を描く複数の成果を提示できた。また、漆器の「相続」という新たな論点の提示、十勝地域におけるアイヌ民族と和人との経済的関係の変容の解明などの成果があった。これらにより、やや停滞気味であった近代アイヌ史の蓄積に貢献できたこと、近世・近代移行期論に寄与した点を成果としてあげたい。今後前述の課題の解明のために、さらに研究を進めていきたい。

b アイヌ絵の分析からは、アイヌ・和人間に成立していた儀礼において、“アイヌ漆器”が逆に和人によってアイヌ風に用いられることを論じ、アイヌ・和人間の関係の変質を論証した成果があげられる。

上記の成果は、成果論集である『漆器からみるアイヌの社会と文化』（北海道出版企画センター、2024年）に収められた各論文にも反映されている。同書には、研究代表者・分担者・協力者による13本の論考が収められており、文理融合という本研究課題の成果を端的に示すものとなっている。その中には、副葬品を中心に、アイヌ文化における漆器の需要について全般的に論じたものも含まれている。他の成果としては、23年10月に幕別町で開催した講演会（研究代表者と研究協力者・M<蒔絵の人間国宝>）があげられる。ここでは蝦夷文化考古館に収蔵されているアイヌが用いた漆器をテーマに、本研究課題の成果を広く公開した。併せて、同会場で緑漆行器を含む蝦夷文化考古館所蔵漆器の実物展示を行なった。

かつ新たな方向性として、初めて青森県三沢市の小川原湖民俗資料館旧蔵資料の調査を行ったことをあげたい。それにより、旧蔵資料の蛸唐草文様の漆椀5点の椀が、アイヌに向けに生産された漆椀と同種であると確認された。すなわち、北東北の漆器文化とアイヌの漆器文化の共通性という、漆器文化やアイヌ文化の理解について、新たな論点を提示するものとなった。

総体として、本研究課題は、アイヌに関わるモノ資料の研究を、大きく前進させる成果をあげたと自負するものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計46件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 8件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Noriyasu Niimura, Tetsuo Miyakoshi, Masako Miyazato, et al.	4. 巻 66-8
2. 論文標題 Investigation of an ancient eared cup excavated in China using pyrolysis gas chromatography/mass spectrometry, scanning electron microscopy/energy-dispersive X-ray spectrometry, laser Raman spectroscopy, and radiocarbon dating, Surface and Interface Analysis,	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 wileyonlinelibrary.com/journal/sia,	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Maria Brunskog, Tetsuo Miyakoshi	4. 巻 66-4
2. 論文標題 A White Gem from Kyoto	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 STUDIES IN CONSERVATION	6. 最初と最後の頁 220-229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Maria Brunskog, Tetsuo Miyakoshi	4. 巻 66-8
2. 論文標題 A Colourful Past: A Re-examination of a Swedish Rococo Set of Furniture with a Focus on the Urushi Components	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 STUDIES IN CONSERVATION	6. 最初と最後の頁 477-501
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 695
2. 論文標題 「札幌市民第一号」琴似又市氏のこと～幕末維新期の札幌とアイヌ社会～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 開発こうほう	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 122
2. 論文標題 時代区分論から考える「中・近世」の「北日本」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Arctic Circle	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅倉有子	4. 巻 4
2. 論文標題 矢本家文書からみる様似アイヌの生活の諸相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 様似郷土館紀要	6. 最初と最後の頁 107-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多貴之	4. 巻 78
2. 論文標題 向方南遺跡における漆分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 杉並区埋蔵文化財報告書	6. 最初と最後の頁 148-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多貴之他	4. 巻 11
2. 論文標題 青森県是川中居遺跡における漆塗り土器の研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館 研究紀要	6. 最初と最後の頁 33-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多貴之	4. 巻 3
2. 論文標題 小石川一丁目遺跡出土漆製品塗膜分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京都文京区小石川一丁目遺跡	6. 最初と最後の頁 1-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多貴之	4. 巻 3
2. 論文標題 金瓦等の科学分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駿府城本丸・天守台跡 - 駿府城公園再整備に伴う発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 153-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原慶郎	4. 巻 150
2. 論文標題 岡田八十次による小樽を通したサハリン島の漁場経営	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊小樽學	6. 最初と最後の頁 13-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 4
2. 論文標題 東蝦夷地シャマニ場所から日高国様似郡ヘーアイヌ史的観点から矢本家文書をよむためにー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 様似郷土館紀要	6. 最初と最後の頁 95-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻 4
2. 論文標題 矢本家文書「当座帳」及び「土人勘定帳」について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 様似郷土館紀要	6. 最初と最後の頁 139-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 1
2. 論文標題 蝦夷通詞とアイヌ語地名	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道博物館第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」連続講座・特別フォーラム 講演記録	6. 最初と最後の頁 69-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久・小川正人	4. 巻 1
2. 論文標題 アイヌが描いた未来	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学びの歴史像 - わたりあう近代 -	6. 最初と最後の頁 157-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 1
2. 論文標題 「恵曾谷日誌」に描かれたアイヌー明治初頭の北海道日本海岸南部の文化状況ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アイヌの暮らしー時代・地域・さまざまな姿	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 1
2. 論文標題 工芸品に込められた主張ー「完全ナル社会人」をめぐってー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アイヌの暮らしー時代・地域・さまざまな姿	6. 最初と最後の頁 158-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原慶郎	4. 巻 180
2. 論文標題 近江商人と北海道小樽ー明治期の八幡2家にみるー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 湖国と文化	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maria Brunskog, Tetsuo Miyakoshi	4. 巻 67-7
2. 論文標題 A Significant Japanese Coffin: A Multi-disciplinary Approach to Examining Late Sixteenth-Early Seventeenth-Century Export Urushi Ware	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 STUDIES IN CONSERVATION	6. 最初と最後の頁 487-499
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 .Maria Brunskog, Tetsuo Miyakoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Documentary Evidence and Scientific Examination of a Mid-Eighteenth Century Japanese Urushi Box	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 STUDIES IN CONSERVATION	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宮腰哲雄、阿部芳郎、新村典康、山田千里	4. 巻 12
2. 論文標題 是川中居遺跡から出土した漆 塗り土器の化学分析と特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館研究紀要	6. 最初と最後の頁 15-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多貴之	4. 巻 22-8
2. 論文標題 熱分解ガスクロマトグラフィーを利用した漆工品の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 オレオサイエンス	6. 最初と最後の頁 389-395
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部芳郎・本多貴之・蒲生侑佳・永井義隆・小久保拓也	4. 巻 11
2. 論文標題 青森県是川中居遺跡における漆塗り土器の研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館 研究紀要	6. 最初と最後の頁 33-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本あづさ	4. 巻 60
2. 論文標題 アイヌの千島交易と松前藩ー『蝦夷島奇観』と『蝦夷見聞記』に描かれたニウエンをめぐる	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 藤女子大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 105-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maria Brunskog, Tetsuo Miyakoshi	4. 巻 69
2. 論文標題 The Material Complexity of Three Seventeenth Century Cabinets Exported from the Far East	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Studies in Conservation	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Maria Brunskog, Tetsuo Miyakoshi	4. 巻 68
2. 論文標題 Documentary Evidence and Scientific Examination of a Mid- Eighteenth Century Japanese Urushi Box	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Studies in Conservation	6. 最初と最後の頁 784-800
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 清水香	4. 巻 42
2. 論文標題 漆器研究の進展	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 131-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 四柳嘉章	4. 巻 3
2. 論文標題 真脇遺跡の漆製品の概要と第18次調査出土漆塗り土器の科学分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 真脇遺跡	6. 最初と最後の頁 110-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 四柳嘉章	4. 巻 5
2. 論文標題 白江梯川遺跡出土盾、匙の科学分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 白江梯川遺跡	6. 最初と最後の頁 433-438
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多貴之	4. 巻 88
2. 論文標題 文化財に利用された有機物分析のこれまでとこれから	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化財科学会	6. 最初と最後の頁 55-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木利和	4. 巻 6
2. 論文標題 新出の松浦武四郎筆アイヌ絵	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 近世京都	6. 最初と最後の頁 101-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 四柳嘉章	4. 巻 1
2. 論文標題 幕別町蝦夷文化考古館所蔵アイヌ伝世漆器の科学分析－塗膜分析からさぐる漆器の品質・産地・年代－	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 5-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮腰哲雄・浅倉有子・Olga Alekseevna Shubina	4. 巻 1
2. 論文標題 千島列島シャスコタン島から出土した漆器の特徴と科学分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 清水香	4. 巻 1
2. 論文標題 アイヌ文化における漆器の受容について -副葬品からみる移入品と価値観の形成-	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 55-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多貴之	4. 巻 1
2. 論文標題 アイヌに伝わる漆工品の分析-余市地方の出土漆器および新ひだか町伝世漆器の科学的分析-	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 103-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 1
2. 論文標題 “アイヌ漆器”を用いる和人-近世蝦夷地在地社会における文化複合状況の一断面-	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 109-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮腰哲雄・山田千里・浅倉有子	4. 巻 1
2. 論文標題 アイヌの漆塗り行器等の特徴と科学分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 125-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦泰之	4. 巻 1
2. 論文標題 場所請負人の経営帳簿に見る漆器 - 西蝦夷地ヨイチ場所請負人林家の松前本店の事例から -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 151-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本あづさ	4. 巻 1
2. 論文標題 近代北海道における交換品の「需用」と「無用」 - 近世的な下賜品と交易品の終焉 -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 163-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅倉有子	4. 巻 1
2. 論文標題 明治10年代の静内アイヌに関する素描	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 181-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原慶郎	4. 巻 1
2. 論文標題 近代初頭におけるアイヌ民族と和人との経済的關係	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 201-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮腰哲雄・山田千里・浅倉有子	4. 巻 1
2. 論文標題 アイヌの漆塗り片口の特徴と科学分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 223-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 數中剛司	4. 巻 1
2. 論文標題 三沢市教育委員会所蔵の蛸唐草文様の漆椀について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 249-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木利和	4. 巻 1
2. 論文標題 アイヌ絵にみる漆器	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 漆器からみるアイヌの社会と文化	6. 最初と最後の頁 263-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅倉有子	4. 巻 424
2. 論文標題 共同研究の醍醐味	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 2
2. 論文標題 様似のアイヌ民族	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 新・様似町史	6. 最初と最後の頁 80-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件（うち招待講演 14件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 谷本晃久
2. 発表標題 アイヌ史的観点から矢本家文書をよむ
3. 学会等名 矢本家文書調査報告会（令和3年度内閣府アイヌ政策推進交付金「様似町アイヌ政策推進事業」）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三浦泰之
2. 発表標題 矢本家文書「当座帳」及び「土人勘定帳」について
3. 学会等名 矢本家文書調査報告会（令和3年度内閣府アイヌ政策推進交付金「様似町アイヌ政策推進事業」）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅倉有子
2. 発表標題 矢本家文書からみる様似アイヌの生活の諸相
3. 学会等名 矢本家文書調査報告会（令和3年度内閣府アイヌ政策推進交付金「様似町アイヌ政策推進事業」）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷本晃久
2. 発表標題 名工の誕生 アイヌ工芸品に込められたメッセージ
3. 学会等名 第18回企画テーマ展「アイヌ工芸品展 アイヌのくらしー時代・地域・さまざまな姿」関連行事 連続講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅原慶郎
2. 発表標題 小樽アイヌ文化考～和人側の資料から～
3. 学会等名 令和3年度アイヌ文化普及啓発セミナー 札幌会場（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅原慶郎
2. 発表標題 岡田八十次による小樽を通したサハリン島の漁場経営
3. 学会等名 ミュージアムラウンジ（博物館講座）小樽市総合博物館
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅原慶郎
2. 発表標題 日露戦前期におけるサハリン島の漁場経営 日本人漁家：岡田八十次家を中心に
3. 学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 共同利用・共同研究拠点公募研究プロジェクト連携セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本あづさ
2. 発表標題 前近代における漆器の仕入値と売値について
3. 学会等名 「モノ資料からみるアイヌの社会と文化」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷本晃久
2. 発表標題 記述されるアイヌの文物 近世の文献資料から考える
3. 学会等名 国立アイヌ民族博物館第5回特別展示シンポジウム「アイヌ資料をコレクションすることを考える」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅原慶郎
2. 発表標題 大三 岡田八十次支店とサハリン島の漁場経営
3. 学会等名 小樽観光ガイドクラブ研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本あづさ
2. 発表標題 沖の口役と沖の口口銭 松前藩における船・人・積荷への課税」
3. 学会等名 「外交の世界史の再構築」第5回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅倉有子
2. 発表標題 共同研究の醍醐味
3. 学会等名 地方史研究会第64回日本史関係卒業論文発表会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 清水香
2. 発表標題 アイヌ文化における宝物と価値観の形成について
3. 学会等名 日本考古学協会第89回総会研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 菅原慶郎
2. 発表標題 オンラインで学ぼう!加賀橋立と小樽のつながり
3. 学会等名 北前船と石川の海を学ぼう! オンライン講座:石川テレビ
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 菅原慶郎
2. 発表標題 学校教育におけるアイヌ文化に関する講習会~児童・生徒のアイヌ文化理解のために~
3. 学会等名 令和5年度 人権教育推進会議（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 菅原慶郎
2. 発表標題 小樽と樺太
3. 学会等名 第4回歴史国境学研究会例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 保戸塚 俊希・本多貴之・永野天大
2. 発表標題 金漆と呼ばれた樹液の成分分析
3. 学会等名 日本文化財科学会第40回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 正田勇人・本多貴之
2. 発表標題 北海道の大川遺跡および入舟遺跡から出土した漆器の科学的分析
3. 学会等名 日本文化財科学会第40回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 正田 勇人・本多 貴之
2. 発表標題 北海道に伝世する近世の漆器の分析
3. 学会等名 第28回高分子分析討論会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本あづさ
2. 発表標題 松前家資料「陸奥国松前并蝦夷地海岸絵図」について
3. 学会等名 北海道史研究協議会「北海道史研究大会」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本あづさ
2. 発表標題 近世日本の支配と北海道アイヌの交易世界
3. 学会等名 アルザス欧州日本学研究所(CEEJA)「近世日本列島北部地域の光と影」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐々木利和
2. 発表標題 『蝦夷生計図説』、そしてウィーン万博のアイヌ資料
3. 学会等名 アルザス欧州日本学研究所(CEEJA)「近世日本列島北部地域の光と影」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅倉有子
2. 発表標題 蝦夷文化考古館に収蔵されている漆器の紹介 アイヌの人々が用いた漆器
3. 学会等名 令和5年度アイヌ政策推進交付金事業関連講演会「アイヌと漆器文化」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 室瀬和美
2. 発表標題 漆の素材と技
3. 学会等名 令和5年度アイヌ政策推進交付金事業関連講演会「アイヌと漆器文化」(招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 宮腰哲雄他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 サイエンス&テクノロジー社	5. 総ページ数 233
3. 書名 環境対応型塗料・塗装技術	

1. 著者名 菅原慶郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 222
3. 書名 近世海産物の生産と流通 北方世界からのコンブ・俵物貿易	

1. 著者名 関根達人・菊池勇夫・手塚薫・北原モコットウナシ・菅原慶郎・谷本晃久・松本あづさ・浅倉有子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 676
3. 書名 アイヌ文化史事典	

1. 著者名 栗島義明・本多貴之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 194
3. 書名 縄文時代の環境への適応と資源利用	

1. 著者名 阿部芳郎・宮腰哲雄・本多貴之	4. 発行年 2023年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 318
3. 書名 縄文の漆と社会	

1. 著者名 浅倉有子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 北海道出版企画センター	5. 総ページ数 267
3. 書名 漆器からみるアイヌの社会と文化	

1. 著者名 荒木裕行・小野将・谷本晃久	4. 発行年 2024年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 206
3. 書名 体制危機の到来：近世後期（日本近世史を見通す 3）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1、菅原慶郎「令和4年度アイヌ工芸品展 アトウイ 海と奏でるアイヌ文化」（石川県立歴史博物館2022年9月23日～11月13日、小樽市総合博物館2022年12月3日～2023年3月5日）</p> <p>2、菅原慶郎「海産物の流通にみる江戸期の北方交易」110-113・「江戸後期の小樽におけるアイヌ民族の生業」166-169（公益財団法人アイヌ民族文化財団ほか編『令和4年度アイヌ工芸品展 アトウイ 海と奏でるアイヌ文化』展示図録、全200ページ、2022年）</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮腰 哲雄 (MIYAKOSHI Tetsuo) (00062018)	明治大学・研究・知財戦略機構（生田）・研究推進員（客員研究員） (32682)	
研究分担者	谷本 晃久 (TANIMOTO Akihisa) (20306525)	北海道大学・文学研究院・教授 (10101)	
研究分担者	菅原 慶郎 (SUGAWARA Yoshiro) (30865449)	東京理科大学・教養教育研究院北海道・長万部キャンパス教養部・講師 (32660)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本多 貴之 (HONDA Takayuki) (40409462)	明治大学・理工学部・専任准教授 (32682)	
研究分担者	三浦 泰之 (MIURA Yasuyuki) (50300843)	北海道博物館・研究部・学芸主幹 (80101)	
研究分担者	松本 あづさ (MATSUMOTO Azusa) (90510107)	藤女子大学・文学部・准教授 (30105)	
研究分担者	清水 香 (SHIMIZU Kaori) (70751816)	明治大学・研究・知財戦略機構（生田）・研究推進員（客員研究員） (32682)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	四柳 嘉章 (YOTSUYANAGI Kasho)	漆器文化財科学研究所・所長	
研究協力者	藪中 剛司 (YABUNAKA Takeshi)	国立アイヌ民族博物館・研究学芸部長	
研究協力者	佐々木 利和 (SASAKI Toshikazu)	北海道大学アイヌ・先住民研究センター・招へい教員	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	室瀬 和美 (MUROSE Kazumi)	重要無形文化財保持者（蒔絵）	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関